

たかし



学校運営協議会 E-Mail : takashics2020@gmail.com

「心の時間」の充実をはかるために

校長 本橋 忠旗

厳しい暑さが続きますが、処暑を過ぎ夕方には虫の音が響くようになりました。夏季休業中には、ラジオ体操や西荻ふるさと盆踊りが盛大に行われました。準備に携われた関係の皆様には感謝申し上げます。また、今年は、戦後80年という節目の年を迎え、様々なニュースやテレビ番組を通じて、戦争や平和、家族や命について考えを深める機会が多かった夏となりました。

さて、6年生の国語の教科書に「時計の時間と心の時間」という教材があります。小学生が読む文章ではありますが、大人でも十分に考えさせられる内容です。

筆者によると「時間」には、「時計の時間」と「心の時間」があるといいます。前者は、地球の動きをもとに定めたもので、いつ、どこで、誰が計っても同じように進むもの、後者は、心や体の状態や身の回りの環境によって時間の感じ方が異なるものということです。時間の感じ方は、例えば、①「自分が退屈なことを行っていると時間が長く感じる」といった「自分が今、行っていることへの感じ方」、②「朝や夜は、昼に比べて時間が早く過ぎるよう感じる」といった、「時間帯による体の動きのよさによる感じ方」、③「ものが少ない部屋よりも、ものがたくさんある部屋の方が、周囲から受ける刺激が多いので時間の進み方を遅く感じる」といった、「身の回りの環境から受ける刺激の多さ」に起因するものがあるといいます。このように時間の感じ方は、その時々の人の心持ちや環境との間で、人それぞれ異なるものであるといいます。

そう言えば、旅先で過ごした時間の感覚、スポーツ中継に見入っていたり、競技に取り組んでいたりした時の時間の感覚、遊園地の乗り物に乗っている時間の感覚、仕事に出る前や帰宅後に自宅で過ごす時の時間の感覚など、どこか理解できるものがあります。

いよいよ2学期が始まります。今学期は、10月の運動会と12月の展覧会といった大きな学校行事を中心に、生活科見学や社会科見学、縦割班活動、保育園・幼稚園との交流会、外部講師の招聘等、様々な学校行事や学習活動を予定しています。また、初めての体験や人との出会いをつくったり、達成の喜びや満足感を味わわせたり、学校生活でしか経験できないことは何なのか、そのねらいや価値を確かめながら計画を立てています。児童にとって心の時間の感じ方は違いますが、こうした学習経験の積み重ねによって、心の時間が少しでも充実できるよう、児童が自分の将来に明るい夢と希望をもてるようにもしていきたいと思います。

心の時間の充実を図るには、児童一人一人が目標や課題意識をもって過ごすことも大切です。他の書籍には、「人は目標がしっかりと定まることで、はじめてグンとやる気が高まり、頑張ることができる」と書かれています。どうしたら夢や希望を持ち続けることができるのか。小学5年生から中学2年生までの子供を1年間追跡調査したところ、将来について家人の人と話し合うことで9割の子供が夢や目標をもち続けることができたといいます。小さな目標で構いません。子供たちの一番の伴走者、道標として、今学期も皆様のご協力をお願ひいたします。